

## 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道180号 <small>おかやまかんじょうみなみ</small> 岡山環状南道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	<small>おかやまけんおかやましみなみくふじた</small> 自：岡山県岡山市南区藤田 <small>おかやまけんおかやましみなみくこしんでん</small> 至：岡山県岡山市南区古新田			延長	2.9km
<b>事業概要</b> 一般国道180号は、岡山市を起点として、松江市へ至る延長約202kmの主要幹線道路である。 岡山環状南道路は、岡山市街地を外側に一周する延長約40kmの岡山環状道路の一部を構成する地域高規格道路として交流・連携の促進を目的とした延長2.9kmの道路である。					
H21年度事業化	H20年度都市計画決定 (H一年度変更)	H23年度用地着手	H24年度工事着手		
全体事業費	約223億円	事業進捗率	7%	供用済延長	0.0km
計画交通量	25,900 ~ 99,700 台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年 平成25年	
	(事業全体) 3.9 (残事業) 4.5	(残事業)/(事業全体) 165 / 188 億円 〔事業費：153/176 億円〕 〔維持管理費：12/12 億円〕	(残事業)/(事業全体) 739 / 739 億円 〔走行時間短縮便益：640/640 億円〕 〔走行費用減少便益：82/82 億円〕 〔交通事故減少便益：17/17 億円〕		
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】 交通量：B/C=3.6~4.2(交通量±10%) 事業費：B/C=3.6~4.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=3.6~4.3(事業期間±20%) 【残事業】 交通量：B/C=4.2~4.8(交通量±10%) 事業費：B/C=4.1~5.0(事業費±10%) 事業期間：B/C=4.1~4.9(事業期間±20%)					
<b>事業の効果等</b> ①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減がみこまれる ・現道における混雑時旅行速度が改善 ・利便性の向上が期待できるバス路線が存在する（両備バス） ・玉野市から岡山空港（第三種空港）へのアクセス向上 ②物流効率化の支援 ・総社市から岡山港（重要港湾）へのアクセス向上 ・玉野市、岡山市南区における農林水産品（千両ナス、マルハチナシ）の流通の利便性向上が見込まれる ③国土・地域ネットワークの構築 ・地域高規格道路「岡山環状道路」の一部としての位置づけあり ④個性ある地域の形成 ・玉野・渋川へのアクセス向上【H24観光入込客数：約191万人】 ⑥地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる					

関係する地方公共団体等の意見

「早期整備を望む。」という要望が、一般国道180号岡山県整備促進期成会（岡山市長・岡山市議会議員長・総社市長・総社市議会議員長・高梁市長・高梁市議会議員長・新見市長・新見市議会議員長）から出されている。

岡山市長の意見：対応方針（原案）について異議ありません。

「一般国道180号岡山環状南道路」は、岡山市の外環状線の一部を構成しており、岡山市街地の渋滞緩和や地域活性化に大きく寄与する重要な道路であり、早期供用に向けて整備促進を要望します。

事業評価監視委員会の意見

事業者から各事業の概要、評価結果及び対応方針（原案）について説明を受け、事業が適切に実施されているか審議を行い、次のとおり意見の取りまとめを行った。

審議の結果、再評価対象の事業は適切に実施されており、事業継続とすることとした事業者の判断は、妥当であると意見集約した。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・岡山西バイパス側道部の全線開通による交通集中や周辺開発の増進、人口増加に伴い、渋滞や交通事故が発生している。
- ・国道180号総社一宮バイパスや市道藤田浦安南町線が事業中であり、岡山環状道路として一体的整備が進められている。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成25年5月末で用地買収は約25%完了している。
- ・平成25年3月末で事業進捗は約7%完了している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・岡山環状道路の一体的整備による相乗効果の発現を図るため、事業を推進する。

施設の構造や工法の変更等

- ・今後の事業実施にあたっては、コスト縮減を図りつつ事業を推進していく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



事業路線	
供用区間	———
未供用区間	- - - - -
その他	
高速道路	———
直轄国道	———
補助国道	———
主要地方道	———
県道	———
その他道路	———

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。